News Release

【発信】国立大学法人
富山大学総務部広報課
(TEL) 076-445-6028
(FAX) 076-445-6063

令和 2 年 1 月 29 日

報道機関各位

高齢者の物忘れ
本人の認識は家族より早く 家族が認識するころには認知機能は低下している
本人が認識した段階での早めの対応が 早期発見・早期対応につながる
―富山県認知症高齢者実態調査の追加分析の結果から―

富山大学地域連携推進機構地域医療保健支援部門は、 平成 26 年に富山県が実施した富山県認知症高齢者実態調査の追加分析を行い、認知症高齢者の早期発見に関する新たな知見を得ましたので公表します。

富山県認知症高齢者実態調査の対象者は、県内の 65 歳以上の高齢者から 0.5%無作為抽出された 1537 人のうち、同意の得られた 1303 人（同意率 84.8%）です。そのうち、今回の研究では、家族と同居している 663 人を対象に、対象者の「物忘れ」の認識と、同居家族による対象者の「物忘れ」の認識の組み合わせと、改訂長谷川式簡易知能評価スケール（HDS－R）(注)との関連性を評価しました。敦賀市立看護大学の中堀伸枝助教、富山大学の関根道和教授らが分析しました。

その結果、本人と家族の物忘れの認識の組み合わせと HDS-R 得点の平均は、本人の認識はなく家族の認識もない場合は 27.0 点、本人の認識はあるが家族の認識はない場合は 24.9 点、本人の認識があり家族の認識もある場合は 15.5 点、本人の認識はないが家族の認識はある場合は 13.0 点でした。このことは、本人の物忘れの認識は家族より早く、家族が本人の物忘れに気づいた時には認知機能は低下している場合が多いことを意味しています。本人が物忘れを認識した段階での早めの対応が、認知症の早期発見・早期対応につながる可能性があると考えられます。

調査結果の詳細は、英国の医学誌 BMC Neurology に掲載されました。高齢者の「物忘れ」を本人と同居家族の視点から研究を行い、認知症高齢者の早期発見の手がかりを明らかにした貴重な研究と考えています。

（注）改訂長谷川式簡易知能評価スケール（HDS－R）

- 9 項目からなる認知症スクリーニングのための検査
- 30 点満点で、20 点以下の場合、認知症が疑われる

【本件に関する問い合わせ先】
富山大学地域連携推進機構
地域医療保健支援部門長 関根道和
930-0194 富山市杉谷 2630
TEL 076-434-7270 FAX 076-434-5022
E-mail: sekine@med.u-toyama.ac.jp

（図） 本人と家族の「物忘れ」の認識の組み合わせと HDS－R 得点

HDS－R（改訂長谷川式簡易知能評価スケール）得点： 平均値±標準偏差

- 分析では、本人と家族の物忘れの認識の有無に基づいて、4 区分しました。すなわち、①物忘れの認識が本人になく家族にもない場合、②本人にあるが家族にない場合、③本人にあり家族にもある場合、④本人にないが家族にはある場合です。
- 物忘れの認識が「本人になく家族にもない」ときの、HDS-R 得点の平均は 27.0 点でした。得点からも実際に物忘れがあまりないと考えられます。「本人にあるが家族にない」ときの平均点は 24.9 点でした。HDS-R 得点がそれほど低くなくとも、本人には家族が気付かない物忘れの認識があることが分かります。「本人にあり家族にもある」ときの平均点は 15.5 点でした。HDS-R 得点が 20 点以下の場合は認知症の存在が疑われることから、本人も家族も物忘れを認識しているときは、すでに認知症が疑われる水準まで認知機能が低下していることが分かります。「本人にないが家族にはある」ときの平均点は 13.0 点でした。この段階では、認知機能低下が進んでおり、また、本人に物忘れの認識がないので、本人を説得して医療機関を受診することは難しくなる可能性があります。
- 認知症は、早期発見・早期対応が重要であり、予防や投薬などの対応により、進行を遅らせることができます。そのため、認知機能低下の早い段階で、本人への医療機関受診の勧奨が必要になります。しかし、今回の調査結果から、家族が認知機能低下を認識して、本人が家族とともに医療機関を受診するころには、認知機能が低下していることが多いといえます。
- そして、認知機能の低下が高度になると、本人は医療機関の受診や介護サービスを受け入れにくくなり、また、その段階で治療を行っても、その効果は限定的であると考えられます。地域では、多くの家族が、認知症が疑われる本人を医療機関に受診させることや介護サービスの利用につなげることに困難を抱えています。
- 今回の調査結果から、家族にその認識がなくても、本人が物忘れを認識した段階で早めの対応をすることが、認知症の早期発見・早期対応につながるのではないかと考えられます。

出典： Nakahori N, Sekine M, Yamada M, Tatsuse T, Kido H, Suzuki M. Discrepancy in the perception of symptoms of cognitive decline between older adults and their family members: results of the Toyama dementia survey. BMC Neurology 2019 19: 338 (Published on: 26 December 2019) https://bmcneurol.biomedcentral.com/track/pdf/10.1186/s12883-019-1581-2